

全国国立大学におけるクォーター制等の 導入・実施状況について

西本 佳代（大学教育基盤センター講師）

1. はじめに

香川大学にクォーター制が導入され、平成 29 年度は、全学共通教育の一部において適用される。大学教育基盤センター調査研究部は、クォーター制導入が決定される以前の平成 27 年 5 月、近隣国立大学におけるクォーター制等¹⁾の実施状況を調査した。また、今年度本学が当番大学として開催した「第 53 回国立大学教養教育実施組織会議」（平成 28 年 5 月開催）では、分科会の課題の一つとしてクォーター制等の導入・実施状況を取り上げ、全国の国立大学教養教育実施組織の担当者と協議した。本稿では、それらの内容をまとめながら、本学において、平成 29 年度から全学共通教育の一部において適用されるクォーター制の特徴を検討したい。

2. 全国国立大学における導入・実施状況

ここでは、全国国立大学におけるクォーター制等の導入・実施状況について概要を把握しておきたい。先述のとおり、「第 53 回国立大学教養教育実施組織会議」では分科会の課題の一つとしてクォーター制等の導入・実施状況が取り上げられた。その際、全国の国立大学教養教育実施組織の担当者に、①クォーター制等の導入状況、②クォーター制等の導入目的、③クォーター制等の適用範囲、の 3 点を選択式の回答で問い合わせている。全国 52 大学を対象とし、全大学から回答が得られた²⁾。その内容について確認しよう。

2-1. クォーター制等の導入状況

まず、クォーター制等の導入状況をみてみたい。図 1 は、クォーター制等の導入状況について、「1. 導入している」「2. 導入予定である」「3. 導入を検討している」「4. 導入を検討していない」のうち該当するものを一つ選択した結果を示したものである。この結果からは、「1. 導入している」28.8%となっており、すでにクォーター制等を導入している国立大学が約 3 割にのぼることがわかる。また、「2. 導入予定である」34.6%、「3. 導入を検討している」23.1%というように導入に前向きに取り組んでいる大学が約 6 割を占めることもうかがえる。なお、クォーター制等を導入している、あるいは導入予定の大学を対象に、導入する年度について聞いたところ、「平成 28 年度以前」21.2%、「平成 28 年度」39.4%、「平成 29 年度」33.3%、「平成 30 年度以降」6.0%という回答が得られた。今年度と来年度を中心にクォーター制等の導入が進められていることが確認できる。

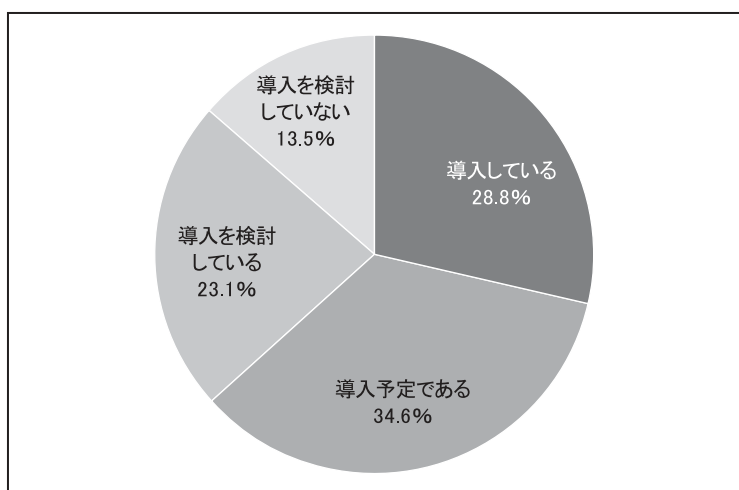


図1 クォーター制等の導入状況

2-2. クォーター制等の導入目的

では、なぜクォーター制等を導入するのか、次に導入目的についてみてみたい。図2は、クォーター制等を導入している、あるいは導入予定、もしくは導入を検討していると答えた大学に対し、クォーター制等の導入目的について問い、得られた回答を示したものである。なお、選択肢は、「1. グローバル化への対応」「2. 教育効果の向上」「3. その他」であり、複数回答可とした。その結果、「1. グローバル化への対応」を導入目的とした大学は84.4%、「2. 教育効果の向上」を目的とした大学は88.9%という結果が得られた。「グローバル化への対応」と「教育効果の向上」のいずれか一方ではなく、両方を目的としてクォーター制等を導入している大学が大多数であることがうかがえる。なお、「3. その他」の具体的な内容としては、「学生が多様な活動をしやすいするため」、「単位実質化」、「学外教育プログラムの実施期間の確保」等が挙げられた。

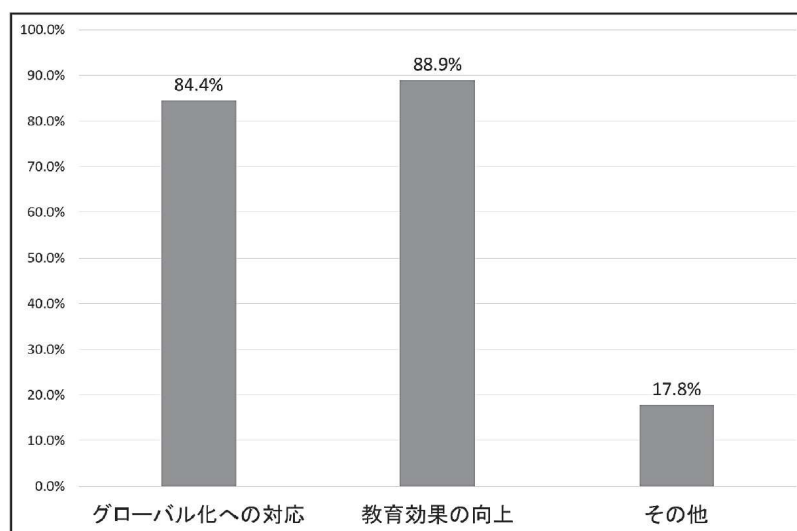


図2 クォーター制等の導入目的

2-3. クォーター制等の適用範囲

先の検討からは、大きく、「グローバル化への対応」と「教育効果の向上」の二点の目的からクォーター制等を導入する大学が大多数であることがうかがえた。この目的を達成するために、クォーター制等の適用範囲をどのように考えればよいのか。図3は、クォーター制等を導入している、あるいは導入予定、もしくは導入を検討していると答えた大学に対し、クォーター制等の適用範囲について問い、得られた回答を示したものである。選択肢は、「1. 全学的に導入している（予定である）」「2. 全学共通教育と一部の学部専門教育のみで導入している（予定である）」「3. 全学共通教育のみで導入している（予定である）」「4. 一部の学部専門教育のみで導入している（予定である）」「5. その他」である。その結果、「1. 全学的に導入している（予定である）」が62.8%と過半数を超えていることがわかる。「2. 全学共通教育と一部の学部専門教育のみで導入している（予定である）」16.3%、「3. 全学共通教育のみで導入している（予定である）」0.0%、「4. 一部の学部専門教育のみで導入している（予定である）」16.3%、「5. その他」4.7%であり、全学的に導入していない大学は、全国的には少数であることが確認できる。

なお、選択式の回答ではないが、自由記述で、④クォーター制等の形態、⑤クォーター制等の導入／実施にあたりもっとも大きな障害となっていること、も聞いているのであわせて簡単に紹介しておこう。④については、一部の授業でクォーター制を導入しているという回答が比較的多くみられたほか、「通常のセメスター制に加え、週2回8週完結及び週1回8週完結のクォーター制を導入する予定」（東北大学）といった併存型や、「1コマ105分、これを13コマ実施」（東京大学）といった形態、クォーターではなく6ターム制を採用（千葉大学、横浜国立大学）といった回答がみられた。また、⑤については、授業日数や教室の確保の困難、履修手続きの煩雑さ等が比較的多く挙げられたほか、非常勤講師の確保、教務システムの対応、効果検証の難しさ、また分散キャンパスをもつ大学の場合には再履修におけるキャンパス間の移動の問題が挙げられた。

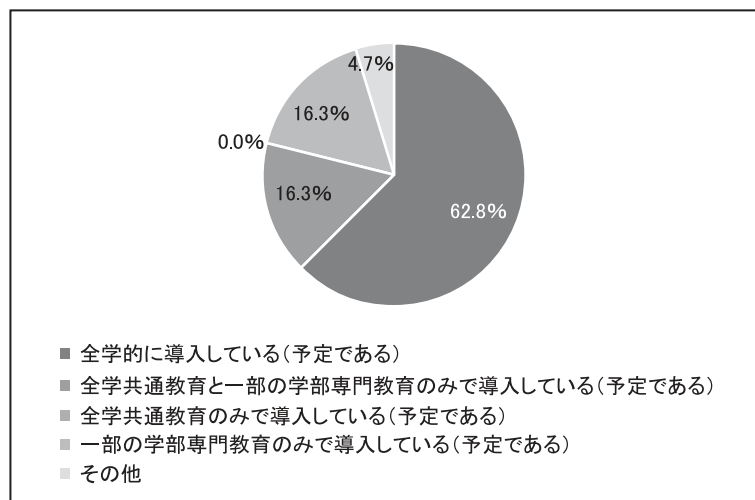


図3 クォーター制等の適用範囲

3. 近隣国立大学における導入・実施状況

「第53回国立大学教養教育実施組織会議」の調査からは、すでにクォーター制等を導入している国立大学が約3割にのぼり、導入を検討していない大学は約1割と数少ないことが確認できた。では、近隣の国立大学においては具体的にどのようなクォーター制等が導入された、あるいは導入されようとしているのだろうか。大学教育基盤センターの調査研究部は、平成27年5月に、山口大学、広島大学、神戸大学、岡山大学、愛媛大学の5大学を訪問し、インタビュー調査を行った。その結果から、各大学で導入された、あるいは導入されようとしているクォーター制等の①導入目的、②形態、③導入経緯、④導入にあたっての困難、について紹介する（表1参照）³⁾。

3-1. 山口大学

山口大学では、共通教育、国際総合科学部（平成27年度新設）、共同獣医学部の一部においてクォーターで実施する授業を導入している。平成25年度に共通教育に導入した目的は、学生が共通して持つべき素養・能力を明確化し、“幅広い分野の教養の学習”を目指した新カリキュラムを実施するためであった。クォーターで実施する授業の形態は、90分授業、週1回、8週完結、1単位とした。その副産物として、各部局が1～3科目の共通教育科目の「開講部局」となる全部局出動体制に移行した。山口大学が特徴的なのは、その導入経緯である。先述のとおり、山口大学では、平成25年度導入の“幅広い分野の教養の学習”を目指した新カリキュラムに伴い、クォーターで実施する授業が取り入れられた。いわば、現場の必要をもとに行われたクォーター授業の導入である。後に続く4大学がどちらかといえばトップダウンの要素が強い中、この点において山口大学の独自性がみられる。なお、導入にあたっての困難については、時間割をくむ難しさはあったものの、教職員や学生の大きな反対はなくクォーターで実施する授業制の導入が進められたという。

3-2. 広島大学

広島大学は、週2回、2コマ連続の授業を行うことで、一つのクォーター内で2単位を出すシステムを採用している。クォーター制導入の目的は主に、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上、留学やボランティア活動といった学生の自主的な学習体験の促進、の二点である。前者については、これまで、週に最大25種類（5コマ×5日）の内容の異なる授業を開講していたが、クォーター制（2コマ連続授業）導入により、週に最大13種類程度の授業を開講することになり、一週間に学ぶ授業内容が精選され、教育効果の向上が期待されるというねらいである。なお、上記二点が主な導入目的であるが、留学生の受け入れ促進という点についてもクォーター制導入の効果を期待しているということだった。クォーター制の形態は、90分授業、週2回、8週完結、2単位。2コマ連続の授業を行い、教育効果の向上をねらうところに広島大学の独自性がある。訪問調査を行っ

た平成 27 年度は試行期間として各学部研究科に、一科目以上での実施を依頼し、平成 28 年度からの本格実施が予定されていた。導入の経緯としては、トップダウンでの導入を予定していたが、教育効果を重視し、クォーター制とセメスター制それぞれのモチ味を活かす方針へ変更したという。導入にあたっての困難としては、2 コマ連続の授業ということもあり、教員の理解を得るのが難しかったという点、時間割作成の困難が挙げられた。

3-3. 神戸大学

神戸大学では、“2 学期クォーター制”（授業料、休学等外枠の内容は現行のセメスター制のまま、1 セメスターで行っていた授業をふたつの時期にわけ）を平成 28 年度より導入する。その目的は、グローバル化への対応にある。必修科目の開講時期が分散している現状のカリキュラムでは留学しにくいという要望があり、クォーター制の導入が検討された。クォーター制導入により、2 年次の第 2 クォーターを選択科目中心にし、短期留学を促進する予定だという。クォーター制の形態は、90 分授業、週 1 回、8 週完結、1 単位、または、90 分授業、週 2 回、8 週完結、2 単位。3 年間の移行期間を経て、学部・大学院（医学部・法科大学院除く）いずれにおいてもクォーター制を導入する予定である。神戸大学のクォーター制の特徴は、グローバル化への対応を主目的として掲げる点にあるといえるだろう。もともと検討されていた秋入学が断念され、その代わりにクォーター制に注目が集まったという導入の経緯を持つ。グローバル化への対応という大学の特色を形作るためのクォーター制導入である。なお、導入にあたっての困難としては、セメスター制を採用したいという要望の強い学部があること、事務職員の作業が煩雑になるということが挙げられた。

3-4. 岡山大学

岡山大学では、平成 28 年度からクォーター制及び 60 分授業を導入する。その導入は、全学的に教育の質の抜本的向上を図ることを目的に、単位の実質化と教育内容・方法の改善を目指したものである。クォーター制の形態は、60 分授業、週 2 回、8 週完結、1 単位科目を標準に、教育目的に応じて自由に設計できる（例えば 1.5 単位のように小数点以下の単位科目も可）。ちなみに、このクォーター制は全学部（大学院・夜間主は除く）で導入される。岡山大学のクォーター制及び 60 分授業は、平成 25 年度に学長、理事レベルでの検討が開始され導入に至った、いわゆるトップダウン型の改革である。平成 26 年度「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されたこともその判断を後押ししたというが、教職員からの反対意見は決して少なくなかったという。特に、クォーター制よりも 60 分授業を導入することに対する抵抗が大きく、休憩時間が減少したことによる移動の難しさ等が指摘された。他方、学部長、副学部長をはじめとした教育責任者との面談をこまめに行ったため、学部からの大きな反対はなく、教育学部や薬学部といった資格が必要となる学部についても、文部科学省等とのやり取りを通じて時間数の問題をクリアしたという。

3-5. 愛媛大学

愛媛大学では、平成 28 年度からクォーター制が導入される。これは、大学の教育機能の強化を図るためであり、「教育の質を保証」を実行する手段の一つとして、「クォーター制の導入」を行うこととした。同大学のクォーター制は、前学期・後学期をそれぞれ 2 分割して 4 つのクォーターを設定し、クォーター毎に約 8 週の授業実施期間で構成するという現行のセメスター制の変形的運用である。具体的な授業実施形態として、共通教育の例を挙げると、英語及び初修外国語では、週 2 回ペアとなる授業時間帯を固定して 15 回の開講、教養科目（主題探究型科目、学問分野別科目）では週 1 回、8 回の開講、スポーツでは 2 つのクォーターにまたがって 15 回の開講など各科目の特性に応じた形を用いている。また、履修登録については、第 1 クォーター及び第 2 クォーターは、前学期の初めに、第 3 クォーター及び第 4 クォーターは後学期の初めに、それぞれ一括して行う。単位の付与については、現行のセメスター制と同時期（前学期末の 9 月と後学期末の 3 月）としている。クォーター制の導入のメリットとしては、集中的な学修が可能になり、能動的な学修姿勢が定着しやすく、それによる教育効果が多いに期待できることが挙げられる。また、2～3 ヶ月程度の学外（国内及び海外）での活動（短期留学、インターンシップ等）がより容易になることも挙げられる。逆にクォーター制の導入にあたっての課題としては、①学事暦の編成上、十分な補講日の確保が容易でないこと②既存の時間割枠を見直すとともに、専門教育科目、共通教育科目及び教職科目の全学的な調整を何度も試行錯誤した後、一から時間割枠を構築しなければならないこと、が挙げられる。

4. おわりに

本稿では、「第 53 回国立大学教養教育実施組織会議」の調査結果及び近隣国立大学を対象としたインタビュー調査の結果をもとに、全国国立大学におけるクォーター制の導入・実施状況について検討してきた。前者の調査結果からは、クォーター制の導入を検討していない国立大学はごく少数であること、グローバル化への対応と教育効果の向上を目的とし、全学的に導入を進める大学が多いこと等が明らかになった。また、後者の調査結果からは、山口大学、広島大学、神戸大学、岡山大学、愛媛大学のクォーター制等の導入目的、形態、導入経緯、導入にあたっての困難が明らかになった。

最後に、それらの内容をふまえて、本学におけるクォーター制の特徴について整理しておこう。平成 29 年度より本学でもクォーター制が導入され、まずは、全学共通教育の主題科目において適用される⁴⁾。形態は、90 分授業、週 1 回、8 週完結、1 単位である。その内容について、他の国立大学との比較を行えば、次の二点が平成 29 年度時点での本学クォーター制の特徴として浮かび上がってくるのではなかろうか。（なお、第三期中期計画には、「全学共通教育でクォーター制導入を実施するとともに、各部局においても学士課程及び大学院課程でのクォーター制導入を検討し、可能なものから実施する」と記載されて

おり、現時点での導入状況をもって完成としていない。)

第一に、平成 29 年度については、全学共通教育の主題科目に限定してクォーター制を適用しているということである。図 3 で示したとおり、クォーター制等を導入している、あるいは導入予定、もしくは導入を検討していると回答した大学のうち、全学的に導入している（予定である）大学は 62.8%にのぼる。なぜ、6 割以上の国立大学が全学的な導入を決定しているかといえば、それはクォーター制による効果を全学的に波及させるというねらいがあるからだろう。もちろん、本学でも、第三期中期計画に、「各部局においても学士課程及び大学院課程でのクォーター制導入を検討し、可能なものから実施する」とあるように、全学的な適用を視野に入れている。しかし、様々な事情を考慮し、平成 29 年度については全学共通教育の主題科目に限定してクォーター制を適用するという判断が下された。現時点で、全学共通教育の主題科目以外でのクォーター制適用については明確に決定されていない。もし、今後もクォーター制の適用範囲が広がらないということになれば、その効果は非常に限定されたものとなるだろう。まずは、全学共通教育の主題科目に限定して適用されるクォーター制だが、それがどのような意味を持つかは、今度、どれだけクォーター制の適用範囲が拡大されるかにかかっているといえる。

第二に、教育効果の向上を主目的としたクォーター制導入だということである。図 2 で確認したように、クォーター制等を導入している、あるいは導入予定、もしくは導入を検討していると回答した大学のうち、導入の目的として、グローバル化への対応と教育効果の向上の二点を両方挙げる大学が大多数にのぼった。他方、本学は教育効果の向上のみを主目的にクォーター制を導入する。これは、先のクォーター制の適用範囲と深くかかわった問題である。つまり、専門教育でクォーター制が適用されない場合、留学のための期間を設定することができず、結果として教育効果の向上のみを選択せざるを得なかったという経緯がある。今後、専門教育でのクォーター制の適用が検討されるにあたって、このグローバル化への対応をどのように位置づけるのかという問題が再浮上してくるものと考えられる。

加えて、教育効果の向上という目的についても、現時点では先行きが不透明な部分があることを述べておこう。教育効果の向上とは、具体的には、幅広い学びの機会を学生に提供することを指している。しかし、学問基礎科目でクォーター制が適用されなかった場合、これは非常に限定された機会になる。本学では、平成 29 年度に検証を行い、その検証結果をもって学問基礎科目にクォーター制を適用するか否かが決定される。適用しないことが決定された場合、全学共通教育におけるクォーター制は、主題科目だけで適用されることになり、幅広い学びの機会を担保できない。その際に、いかにして幅広い学びの機会を学生に提供できるかはまだ検討の段階である。

以上、全国国立大学におけるクォーター制の導入・実施状況についての検討をもとに、本学におけるクォーター制の特徴を整理してきた。今後の運用次第によって、クォーター制導入の意味合いが大きく変わってくることが確認できたのではなかろうか。継続的な検

討が必要とされている。

謝辞

インタビュー調査にご協力くださった、山口大学、広島大学、神戸大学、岡山大学、愛媛大学のご担当者の皆様に心より御礼申し上げます。

注

- 1) 「クォーター制」という言葉を用いず、クォーター制に類する取組を実施している大学もある。そのため、本稿では「クォーター制等」とし、クォーター制に類する取組も一括して取り扱うこととする。
- 2) 各大学の回答は、平成 28 年 4 月時点のものである。
- 3) 近隣国立大学の回答は、平成 27 年 5 月の調査時のものである。なお、原稿執筆の平成 29 年 1 月の時点で、各大学に回答の加筆修正をしていただいた。
- 4) 本学におけるクォーター制の導入は、平成 29 年度からだが、すでに経済学部の間主と農学研究科においてクォーター型科目が実施されている。

参考文献

当番大学 香川大学『平成二十八年度（第五十三回）国立大学教養教育実施組織会議・国立大学教養教育実施組織事務協議会』（国立大学教養教育実施組織会議配布資料）